



作文1部

農林水産大臣賞

のうりんすいさんだいじんしょう

「たのしい日になる」

神奈川県平塚市立中原小学校二年

笹尾歩叶

「つまらないな。」

きんきゅうじたいせん言が出ていて、どこにも行けないし、雨がずっとふっているから、外でなわとびもできなくて、たいくつだつた。その時とつぜんお母さんが

「いっしょにおにぎり作ろう。」

と言つた。

ラップにごはんをのせて、シャケをまん中に入れる。それを丸めてギュッとにぎる。お母さんはどんどんにぎつていくけど、ぼくはごはんがあつくてなかなかさわれない。少しさめて、やつとにぎれた。手の形を教えてもらつたのに、ぜんぜん三角にならなくて

「何でかな。」
と聞いたら

「まだまだおててが小さいですからねえ。」

とお母さんが言つた。

「おててって言わないで。手でしょ。赤ちゃんじゃないんだから。」

と言つて、二人で大わらいした。ぼくのおにぎりは、お母さんがしあげに三回ギュッとしたら、三角になつた。

おにぎりは九こできた。お父さんも、おねえちゃんも

「おいしい。上手にできたね。」

とほめてくれた。ぼくもいつもよりおいしくて、ペロリと「こもたべた。

おにぎりを作つたら、つまらないと思つていた日が一気にたのしい日になつた。ぼくが

「また作ろうよ。」

と言つたら、お母さんが

「そうだね。つぎは、おいなりさんにしようか。おてての小さい歩叶にも、作りやすいかもしない。」

とわらつた。

おいなりさんもきっとおいしくできるし、作る日は、ぜつたいにたのしい日になると思う。早く作りたいな。